

患者の補償が先決

患者家庭 “**水俣病**”で県へ陳情
互助会

水俣病問題をめぐる新日窒水俣工場と不知火海沿岸漁民との紛争は寺本知事のあつせんで打開の方向をみいだそうとしているが、水俣病患者家庭互助会の渡辺榮蔵会長（みら約五十人は中村水俣市長らに伴われて二十一日、貸し切りバスで熊本県庁に押しかけ、漁業補償より患者やその家庭の補償が先だ”と水上副知事に陳情した。

これには水俣病の原因が新日窒水俣工場の廃液であることは明らかだから、知事があつせんに乗り出す場合、患者補償を漁業補償に優先させてほしいというもの。渡辺会長らは“漁民が騒いだため、水俣病問題の焦点が患者のことより漁業問題に移された感じがある”とのべ、水俣病の第一次的被害者である患者とその家族の悲惨な状

況が忘れられるのではないかと心配しており、陳情団のなかには“騒がねば補償してくれないのなら、別の考えがある”と真剣な表情で訴える人もいた。

これに対し同副知事は“あなたたちのことを県が忘れてるわけではない”と答えたが具体的なことには触れなかった。